

『小学算数』1年 年間指導計画（詳細案）

0 かずや かたちで たのしく (①表2～p.13)

4月中旬 [4時間]

【単元の目標】

- (1) 観点に応じた集まりのつくり方や2つの集合要素の比べ方を理解し、ものの個数を比べることができる。
- (2) 数のまとまりに着目し、観点に応じたものの集まりをつくったり、2つの集合要素の比べ方を考えたりすることができる。
- (3) 数のまとまりに着目するよさや個数の多少を比べるよさに気づき、算数を学習する楽しさを感じながら学ぼうとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①観点に応じてものの集まりをつくることができる。 ②ものともとの対応させることによって、ものの個数の多少を比べることができる。	①数のまとまりに着目し、観点に応じたものの集まりを考えている。 ②2つの集合の要素を、1対1に対応させて数の多少を比べる方法を考えている。	①身の回りにあるものの個数に親しみ、大きさを比べようとしている。

時間	目標	学習活動	評価規準・方法
1	表2(表紙裏)～p.7は、算数の内容と関連性のある就学前の生活(幼稚園や保育園などでの活動)のようすを想起させる場面が示されている。		
にゅうがく おめでとう (p.8～13) 3時間			
2	○ものの集まりやその個数(1～5)に関心を持ち、観点を意識してものの集合をつくることができる。	・同じ動物、生き物などに着目し、いろいろな観点に応じた集合づくりをする。	知①：教科書 思①：観察・発言 態①：観察・発言
3	○2つの集合の要素を、1対1に対応させて考え、数の多少を比べることができる。	・うさぎと帽子などの2つの集合の要素を、線を結んで1対1対応させて、数の多少を比べる。	知②：教科書 思②：観察・発言
4	○2つの集合の要素を、おはじきに置きかえて1対1に対応させて考え、数の多少を比べることができる。	・2つの集合の要素の相等や多少を比較する方法を考える。 ・動物と牛乳などの2つの集合の要素を、おはじきを用いて、数の多少を比べる。	知②：観察 思②：観察・発言 態①：観察・発言

1 10までの かず (① p.14～31)

4月下旬～5月中旬 [9時間]

【単元の目標】

- (1) 0から10までの数の構成を理解し、数を正しく数えたり表したりすることができる。
- (2) 数のまとまりに着目し、ものの個数、相等、大小を考慮することができる。
- (3) 身の回りにあるものの個数に親しみ、それらを数えたり、表したり、比べたりすることのよさを感じながら学ぼうとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①0から10までの個数を正しく数えたり表したりすることができる。 ②0から10までの数を、具体物、半具体物、数字に置きかえることができる。 ③数の順序や系列、大小を理解している。	①0から10までの数を調べるのに、半具体物や数字に置きかえて考え表現している。	①身の回りにあるものの個数に親しみ、大きさを比べたり数えたりしようとしている。

時間	目標	学習活動	評価規準・方法
1	○身の回りのものの個数に親しむことによって、「いち」「に」「さん」「し」「ご」の数詞を知り、確実に数えることができる。	・「いち」…「ご」の数詞を知り、確実に数える。 ・1から5までの数について、具体物、ブロック、数図、数字を互に対応させる。	思①：観察・発言 態①：観察・発言
2	○1から5までの数字のよみ方、かき方を理解する。	・1から5までの数字のよみ方、かき方を知る。 ・1から5までの数の表し方を練習する。	知①：教科書
3	○1から5までの数を、具体物、半具体物、数字で表現することができる。	・1から5までの数について、具体物、ブロック、数図、数字を関連づける。	知②：観察・発言
4	○自ら進んで大きさを比べたり数えたりすることによって、「ろく」「しち」「はち」「く」「じゅう」の数詞を知り、確実に数えることができる。	・「ろく」…「じゅう」の数詞を知り、確実に数える。 ・6から10までの数について、半具体物、数図、数字を互に対応させる。	思①：観察・発言 態①：観察・発言
5	○6から10までの数字のよみ方、かき方を理解する。	・6から10までの数字のよみ方、かき方を知る。 ・6から10までの数の表し方を練習する。	知①：教科書
6	○6から10までの数を、具体物、半具体物、数字で表現することができる。	・6から10までの数について、具体物、ブロック、数図、数字を関連づける。	知②：観察・発言
7	○10までの数について、その系列を理解する。	・1から10までの数について、少ない数から並んだブロックを見て、その系列を調べる。	知③：観察・発言
8	○半具体物や数字に置きかえて考え表現することによって、10までの数について、大小比較をすることができる。	・1から10までの数について、数の大小比較をする。	知③：観察・発言 思①：観察・発言
9	○身の回りのものの個数を表す場面から、集合の要素がないことを表す0の意味やかき方を理解する。	・0という数を知る。	知①：教科書 態①：観察・発言

2 なんばんめ (① p.32 ~ 35)

5月中旬 [2時間]

【単元の目標】

- (1) 数やことばを用いた順序や位置の表し方を理解し、ものの順序や位置を表すことができる。
- (2) 集合数と順序数を統合的にとらえ、数やことばを用いたものの順序や位置の表し方を考えることができる。
- (3) 順序や位置を表すのに、数やことばを用いるよさを感じながら学ぼうとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①順序を正しく数えたり表したりすることができる。 ②前後、左右、上下など方向や位置についてのことばを用いて、ものの位置を表すことができる。	①集合数や順序数を表すものとして数をとらえ、数やことばを用いたものの順序や位置の表し方を考え表現している。	①身の回りにあるものの順序や位置に親しみ、数やことばを用いて表そうとしている。

時間	目標	学習活動	評価規準・方法
1	○身の回りにあるものの順序や位置に親しむことによって、集合数と順序数のちがいを理解するとともに、数やことばを用いてもものの順序や位置を表すことができる。	・絵を見て、順序や位置（前後）を表すのに、数やことばを用いることを知る。 ・集合数と順序数のちがいを考える。	知①②：観察・教科書 思①：観察・発言
2	○身の回りにあるものの順序や位置に親しみ、左右、上下のことばを用いて、ものの位置を表すことができる。	・黒板に貼った絵を見て、ものの位置（左右／上下）を表すのに、数やことばを用いることを知る。 ・集合数と順序数のちがいの習熟を図る。	知①②：観察・発言 思①：観察・発言 態①：観察・発言

3 いくつと いくつ (① p.36 ~ 45)

5月下旬 [7時間]

【単元の目標】

- (1) 10までの数の構成を理解し、10までの数を多面的にみることができる。
- (2) 10までの数の合成・分解をもとに、数の多様な表し方を考えることができる。
- (3) 1つの数を、ほかの数を用いて表せることに気づき、数に親しみながら学ぼうとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①10までの数の合成、分解を理解している。 ②1つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関係づけてみることができる。	①10までの数について、2つの数から1つの数を考えたり、1つの数を2つに分けたりして、数を多面的にとらえ、表している。	①1つの数を、ほかの数を用いていろいろな表し方とらえようとしている。

時間	目標	学習活動	評価規準・方法
1	○いろいろな表し方とらえようとするところから、5を2つの数の組み合わせとしてみるることができる。	・5人グループをつくる活動を通して、5の分解を体験する。 ・5の合成・分解を行う。	知①②：発言・教科書 態①：観察・発言
2	○6を2つの数の組み合わせとしてとらえ、6の合成・分解ができる。	・手の中に隠したおはじきの数を考える活動を通して、6の分解を体験する。 ・6の合成・分解をまとめる。	知①②：発言・教科書
3	○7を2つの数の組み合わせとしてとらえ、7の合成・分解ができる。	・2つのさいころの目をあわせて7にする活動を通して、7の合成・分解を体験する。 ・7の合成・分解をまとめる。	知①②：発言・教科書

4	○8を2つの数の組み合わせとしてとらえ、8の合成・分解ができる。	・数字カードを組み合わせせて8をつくる活動を通して、8の合成・分解を体験する。 ・8の合成・分解をまとめる。	知①②：発言・教科書
5	○9を2つの数の組み合わせとしてとらえ、9の合成・分解ができる。	・数字カードを組み合わせせて9をつくる活動を通して、9の合成・分解を体験する。 ・9の合成・分解をまとめる。	知①②：発言・教科書
6	○10を2つの数の組み合わせとしてとらえ、10の合成・分解ができる。	・数字カードを組み合わせせて10をつくる活動を通して、10の合成・分解を体験する。 ・10の合成・分解をまとめる。	知①②：発言・教科書
7	○10づくりのゲームを通して、数を多面的にとらえ、10の合成・分解を習熟する。	・10個のブロックを使って、数あてゲームを行う。 ・数字カードを組み合わせせて10にする活動を行う。 ・10になる数の組み合わせを見つけて、線で囲む活動を行う。	知①②：発言・教科書 思①：観察・発言 態①：観察・発言

4 あわせて いくつと ふえると いくつ (② p.2～13)

6月上旬～6月中旬 [9時間]

【単元の目標】

- (1) 加法の意味や計算の仕方を理解し、その計算ができる。
- (2) 数量の関係に着目し、合併・増加の場면을加法として考えたり、加法の計算の仕方を考えたりすることができる。
- (3) 数量の関係を具体物や図などを用いて考えたり、式に表したりするよさに気づき、身の回りから加法の場面を見つけ、加法を用いようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①加法の意味について理解し、それら が用いられる場合について知っている。 ②合併・増加など、加法が用いられる 場면을式に表したり、式をよみ取っ たりすることができる。 ③1位数と1位数の加法の計算が確実 にできる。	①ある場面について、加法を用いるこ とができるかどうかを、数量の關係 に着目して、具体物や図などを用い て考え表現している。 ②日常生活の問題を、加法を活用して 解決している。	①加法が用いられる場面の数量の關係 を、具体物や図などを用いて考え表 現しようとしている。 ②身の回りから合併・増加の場面を見 つけ、加法を用いようとしている。 ③数や式に親しみ、加法のよさや楽し さを感じながら学ぼうとしている。

時間	目標	学習活動	評価規準・方法
あわせて いくつ (p.2～5) 3時間			
1	○単元アプローチ ・さし絵を見て、2つの数量を見つけてその関係に着目し、合併・増加の場面のお話づくりをする。		態①：観察・発言
2	○合併の場面について、数量の關係に着目して、具体物や図などを用いて考え表現することによって、「+」「=」のかき方や「しき」「たしざん」の意味を知り、式に表す方法を理解する。	・合併の場面で、さし絵を見たりブロックを操作したりして、加法の意味をとらえる。 ・合併の場面での式の表し方を知る。 ・センテンス型、フレーズ型の「式」の意味を知る。	知①：ノート 思①：観察・発言
3	○合併の場面の数量關係を具体物や図などを用いて進んで考え表現し、加法の意味理解を深め、和が5以下の加法の計算ができる。	・合併の場面における加法の式、答えなどのかき方を練習する。 ・(5以下の数)+(5以下の数)=(5以下の数)の計算を練習する。	知②③：ノート 態①：観察・発言
ふえると いくつ (p.6～10) 4時間			
4	○増加の場面について、数量の關係に着目して、具体物や図などを用いて考え表現することによって、加法の意味を理解し、式の表し方や答えのかき方を理解する。	・さし絵を見て、増加の場面でのお話づくりをする。 ・増加の場面で、さし絵を見たりブロックを操作したりして、加法の意味をとらえる。 ・増加の場面での式の表し方を知る。	知①：ノート 思①：観察・発言
5	○増加の場面の数量關係を具体物や図などを用いて進んで考え表現し、加法の意味理解を深め、和が10以下の加法の計算ができる。	・増加の場面における加法の式、答えなどのかき方を練習する。 ・(6以上の数)+(5以下の数)=(10以下の数)の計算を練習する。	知②③：ノート 態①：観察・発言
6	○加法の適用場面において具体物や図などを用いて数量關係を考え表現し、加法の意味理解を深め、加法の計算ができる。	・増加・合併の場面における加法の式、答えのかき方などを練習する。 ・(5以下の数)+(1位数)=(5以上、10以下の数)の計算を練習する。	知①②：ノート 思①：観察・発言
7	○たし算カードを使って、和が10以下の加法の計算を習熟する。	・たし算カードを使って、和が10以下の加法の計算を練習する。 ・たし算カードを並べ、きまりを見つける。	知③：観察・発言

0の たしざん (p.11) 1時間		
8	○玉入れの場面を具体物や図などを用いて考え表現し、0の加法の意味を理解する。	・0を含む加法の意味を知り、計算をする。 知①②：ノート 思①：観察・発言
おはなしづくり (p.12～13) 1時間		
9	○身の回りから合併・増加の場面を見つけ、それらの場面を加法のお話に表示することができる。	・合併・増加を統合的にとらえ、お話づくりをする。 【つかってみよう】 ・合併・増加の場面をとらえて、たしざんえほんをつくる。 思②：作品・発言 態②③：観察・発言

5 のこりは いくつと ちがいは いくつ (② p.14～27)

6月下旬～7月上旬 [9時間]

【単元の目標】

- (1) 減法の意味や計算の仕方を理解し、その計算ができる。
- (2) 数量の関係に着目し、求残・求補・求差の場面を減法として考えたり、減法の計算の仕方を考えたりすることができる。
- (3) 数量の関係を具体物や図などを用いて考えたり、式に表したりするよさに気づき、身の回りから減法の場面を見つけ、減法を用いようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知っている。 ②求残・求補・求差など、減法が用いられる場面を式に表したり、式をよみ取ったりすることができる。 ③1位数と1位数の減法の計算が確実にできる。	①ある場面について、減法を用いることができるかどうかを、数量の関係に着目して、具体物や図などを用いて考え表現している。 ②日常生活の問題を、減法を活用して解決している。	①減法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考え表現しようとしている。 ②身の回りから求残・求補・求差の場面を見つけ、減法を用いようとしている。 ③数や式に親しみ、減法のよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

時間	目標	学習活動	評価規準・方法
のこりは いくつ (p.14～19) 5時間			
1	○単元アプローチ ・さし絵を見て、2つの数量を見つけてその関係に着目し、求残の場面のお話づくりをする。		態①：観察・発言
2	○求残の場面について、数量の関係に着目して具体物や図などを用いて考えることによって、「-」のかき方や「ひきざん」の意味を知り、式に表す方法を理解する。	・求残の場面で、さし絵を見たりブロックを操作したりして、減法の意味をとらえる。 ・求残の場面での式の表し方を知る。 ・センテンス型、フレーズ型の「式」の意味を知る。	知①：ノート 思①：観察・発言
3	○求残の場面の数量関係を具体物や図などを用いて進んで考え表現し、減法の意味理解を深め、被減数が9以下の減法の計算ができる。	・求残の場面における減法の式、答えなどのかき方を練習する。 ・(9以下の数) - (1位数)の計算を練習する。	知②③：ノート 態①：観察・発言
4	○求補の場面について、数量関係に着目して具体物や図などを用いて考えることによって減法の意味を理解し、式に表す方法を理解する。	・求補の場面で、さし絵を見たりブロックを操作したりして、減法の意味をとらえる。 ・求補の場面での式の表し方を知る。 ・10 - (1位数)の計算を練習する。	知①：ノート 思①：観察・発言
5	○ひき算カードを使って、被減数が10以下の減法の計算を習熟する。	・ひき算カードを使って、被減数が10以下の減法の計算を練習する。 ・ひき算カードを並べ、きまりを見つける。	知③：観察・発言

0の ひきざん (p.20) 1時間		
6	○ボウリングの場面を具体物や図などを用いて考え表現し、0の減法の意味を理解する。	・0を含む減法の意味を知り、計算をする。 知①②：ノート 思①：観察・発言
ちがいは いくつ (p.21～24) 2時間		
7	○求差の場面について、数量関係に着目して、具体物や図を用いて考え表現することによって、減法の意味を理解し、式の表し方や答えのかき方を理解する。	・求差の場面で、さし絵を見たりブロックを操作したりして、減法の意味をとらえる。 ・求差の場面での式の表し方を知る。 ・求差の場面における減法の式、答えなどのかき方を練習する。 知①：ノート 思①：観察・発言
8	○求差の適用場面において、ブロックや図を使って進んで考え表現し、2つの数量のちがひ(差)は、減法で求められることを理解する。	・どちらがどれだけ多いかを、式やことばに表して考える。 ・2つの数量のちがひの求め方を考える。 知②：ノート 態①：観察・発言
おはなしづくり (p.25～26) 1時間		
9	○身の回りから求残、求補、求差の場面を見つけ、それらの場面を減法のお話に表現することができる。	・求残・求補・求差を統合的にとらえ、お話づくりをする。 【つかってみよう】 ・求残・求差の場面をとらえて、ひきざんえほんをつくる。 思②：作品・発言 態②③：観察・発言
※	「なるほどさんすう」(p.27)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。	

6 かずを せいりしよう (② p.28～31)

7月上旬【3時間】

【単元の目標】

- ①ものの個数を簡単な絵や図を用いて表したり、よみ取ったりすることができる。
- ②データの個数に着目し、身の回りの事象に関する数の大小関係を絵や図を用いて整理し、その特徴を考えることができる。
- ③ものの個数を絵や図を用いて整理することのよさを感じながら学ぼうとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①ものの個数について、簡単な絵や図などに表したり、それらをよみ取ったりすることができる。 ②対象を絵などに置きかえる際には、それらの大きさをそろえることや、並べる際に均等に配置することが必要であることを理解している。	①身の回りの事象について、絵や図などを用いて整理して表すことで、どの項目のデータの個数がどの程度多いかという事象の特徴をとらえている。	①ものの個数を絵や図などに整理して表すことを、楽しんで学んでいる。

時間	目標	学習活動	評価規準・方法
1	○ものの個数を絵や図を用いて表したり、よみ取ったりすることができる。	・動物の数がわかりやすい整理の仕方を考え、絵や図を用いて表す。	知①②：発言・ノート 態①：観察・発言
2	○ものの個数を絵や図を用いて表すことで、事象の特徴をよみ取ることができる。	・動物の数を表した絵や図を見て、その特徴を考察する。	知①：観察・発言 思①：観察・発言
3	○分類整理したい観点に応じた並べ方を楽しんで考え、絵グラフの変化や事象の特徴をよみ取ることができる。	【つかってみよう】 ・咲いたあさがおの花の数を調べ、絵や図を用いて整理する。 ・咲いた曜日、花の色と観点を変えて並びかえた絵グラフを考察する。	思①：観察・発言 態①：観察・発言

● ふくしゅう (② p.32 ~ 33)

7月下旬 [1時間]

時間	学習活動
1	○1学期の学習内容の理解を確認する。 *時間内で扱えない問題は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に取り組ませる。

* さんすうの がくしゅうの すすめかた (② p.34 ~ 35) [配当時数なし]

時間	学習活動
※	・「さんすうの がくしゅうの すすめかた」は、オリエンテーションや短時間学習などを通して弾力的に扱う。

7 10より おおきい かず (② p.36 ~ 45)

9月上旬~9月中旬 [8時間]

【単元の目標】

- (1) 20までの数の構成を理解し、数を正しく数えたり表したりすることができるとともに、20までの数の簡単な計算ができる。
- (2) 数のまとまりに着目し、「10とあといくつ」という数の見方を用いて、数の数え方や表し方を考えることができる。
- (3) 「10とあといくつ」で数えるよさに気づき、身の回りのものの個数を数えたり表したりしようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①2位数の表し方について理解している。 ②数の順序や系列を理解し、数直線の上に表したり、数の大小比較をしたりすることができる。 ③「10とあといくつ」という数の見方などを用いると、簡単な場合について、2位数などの加法及び減法ができることを理解している。	①「10とあといくつ」という数の見方を用いて、数の表し方を考えている。 ②「10とあといくつ」や、2ずつや5ずつなどの数のまとまりを用いて、数の数え方を考えている。 ③和が10より大きい数になる加法及びその逆の減法について、「10とあといくつ」という数の見方を用いて、計算の仕方を考えている。	①身の回りにあるものの個数に親しみ、数を効率的に数えたり、大きさを比べたりしようとしている。

時間	目標	学習活動	評価規準・方法
かずの あらわしかた (p.36 ~ 43) 6時間			
1	○20までのものの数を、10といくつという見方で考え、その表し方について知る。	・かにやかめ、ひとでの数を数えるを通して、10より大きい数の表し方を考える。	知①：ノート 思①：観察・発言
2 3	○「10とあといくつ」を用いて考え、20までのものの数を正しく数え、その数のよみ方、かき方を理解する。	・20までの数のよみ方、かき方を知る。 ・20までの数の数え方の定着を図る。 ・2ずつ、5ずつまとまったものの数をくふうして数える。	知①：ノート 思②：観察・発言
4	○20までの数について、「10といくつ」という見方で数の合成・分解を考える。	・20までの数の構成について、合成の見方で考える。 例 10と6で□ ・20までの数の構成について、分解の見方で考える。 例 13は10と□	思①：発言・ノート
5	○20までの数について、数直線に親しむことによって、順序や系列を理解する。	・かずのせん(数直線)を使って、20までの数の系列をいろいろな見方でとらえる。	知②：発言・ノート 態①：観察

6	○20までの数について、数直線に親しむことによって大小比較をすることができる。	・かずのせん（数直線）などを使って、20までの数の大小関係を考える。	知②：観察・発言 態①：観察・発言
たしざんと ひきざん (p.44～45) 2時間			
7	○「10とあといくつ」という見方を用いて、10と1位数の加法及びその逆の減法の計算ができる。	・20までの数の構成を、10と1位数の加法及びその逆の減法でとらえる。	知③：ノート 思③：観察・発言
8	○20までの数範囲で、繰り上がりや繰り下がりがない（2位数）±（1位数）の計算ができる。	・20までの数の構成を加法や減法でとらえる。	知③：ノート

8 なんじ なんじはん (② p.46～47)

9月中旬 [1時間]

【単元の目標】

- (1) 時計の長針・短針の役割を理解し、時刻をよんだり時計で表したりすることができる。
- (2) 時計の長針・短針の位置関係に着目し、時刻のよみ方を考えることができる。
- (3) 時刻に関心を持ち、1日の生活と関連づけて時刻をよもうとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①時計の長針・短針を見て、「何時」「何時半」をよんだり、時計で表したりすることができる。	①時計の長針・短針が示す数と時刻を表す数との対応をとらえ、時刻のよみ方を考えている。	①1日の生活と関連づけながら時刻をよんだり、時計で表そうとしていたりしている。

時間	目標	学習活動	評価規準・方法
1	○時計の長針、短針が示す数と時刻の対応をとらえ、「何時」「何時半」をよんだり、時計で表したりすることができ、生活と関連づけようとする。	・1日の生活と関連づけながら、「何時」「何時半」をよんだり、時計で表したりする。	知①：観察・発言 思①：観察・発言 態①：発言

9 どちらが ながい (② p.48～52)

9月下旬 [5時間]

【単元の目標】

- (1) 長さを比べたり、任意単位のいくつ分として数で表したりすることができる。
- (2) 身の回りのものの長さに着目し、長さの比べ方を考えることができる。
- (3) 長さを比べたり数で表したりするよさに気づき、くふうして長さを比べようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①長さを具体的な操作によって直接比較したり、他のものを用いて間接比較したりすることができる。 ②身の回りにあるものの長さを任意単位として、そのいくつ分かて長さを表したり比べたりできる。 ③身の回りにあるものの長さの長短をとらえるなど、量（長さ）の大きさについて感覚を豊かにしている。	①身の回りのものの特徴の中で、比べたい量（長さ）に着目し、長さの比べ方を考え、見いだしている。	①身の回りにあるものの長さに親しみ、長さを比較しようとしている。 ②媒介物を用いて長さを間接比較することで、直接比較はできない長さが比べられるようになるというよさに気づいている。 ③身の回りにあるものの長さを任意単位として、そのいくつ分かて数値化することで、長さのちがいを明確にすることができるよさに気づいている。

時間	目標	学習活動	評価規準・方法
1	○身の回りにあるものの長さに親しみ、長さを直接比較で比べることができる。	・2本の鉛筆やひも、紙の縦と横の長さを直接比較で比べる。	知①：観察・発言 態①：観察
2	○直接比較ができない長さに着目し、長さの間接比較の方法を理解する。	・本の縦と横の長さを、間接比較（テープで長さを抽出）で比べる。 ・テーブルと扉の幅、水そうと机の幅を間接比較（テープで長さを抽出）で比べる。	知①：観察・発言 思①：観察・発言
3	○長さを間接比較で比べることができるよさに気づき、身の回りの長さの長短をとらえる。	【つかってみよう】 ・身の回りのものの長さを間接比較（テープで長さを抽出）で比べる。	知③：観察・発言 態②：観察・発言
4	○長さを任意単位のいくつ分として数値化することを理解する。	・身の回りのものの長さを、任意単位のいくつ分で表す。	知②：観察・発言
5	○長さを任意単位のいくつ分として数値化し、比較することができ、長さのちがいが明確にできることに気づく。	・身の回りのものの長さを、任意単位のいくつ分（マス目の数）で表したり比べたりする。	知②：発言・ノート 態③：観察・発言

10 ふえたり へったり (② p.53～58)

9月下旬～10月上旬【4時間】

【単元の目標】

- (1) 3つの数の加法及び減法の意味を理解し、式に表したり計算したりすることができる。
- (2) 数量の関係に着目し、3つの数の加法及び減法の意味や計算の仕方を考えることができる。
- (3) 3つの数の計算を1つの式に表せるよさに気づき、身の回りの場面を式に表したり計算したりしようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①3つの数の加法及び減法の場面を式に表したり、式をよみ取ったりすることができる。 ②3つの数の加法及び減法の計算が確実にできる。	①3つの数の加法及び減法の意味や計算の仕方を、数量の関係に着目して、具体物や図などを用いて考え表現している。	①学習したことをもとに、3つの数の加法及び減法の計算の仕方を考えようとしている。 ②身の回りから3つの数の計算で表せる場面を見つけ、用いようとしている。

時間	目標	学習活動	評価規準・方法
1	○3つの数の加法の場面を式に表し、その計算の仕方を考え計算ができる。	・電車ごっこの場面を通して、3つの数の加法の式の計算の仕方を考える。	知①②：発言・ノート 思①：観察・発言
2	○3つの数の減法の場面を式に表し、その計算の仕方を考え計算ができる。	・電車ごっこの場面を通して、3つの数の減法の式の計算の仕方を考える。	知①②：発言・ノート 思①：観察・発言
3	○加法と減法を組み合わせた3つの数の計算の場面を式に表し、その計算の仕方を考え計算ができる。	・電車ごっこの場面を通して、3つの数の加減のまざった式の計算の仕方を考える。	知①②：発言・ノート 思①：観察・発言 態①：観察・発言
4	○3つの数の加減がまざった式をよみ取り、それを表す場面を見つける。	・3つの数の加減がまざった式の計算を総合的にとらえた問題づくりをする。	知①：発言・ノート 態②：観察・発言
※	「なるほどさんすう」(p.58)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		

11 たしざん (② p.59 ~ 71)

10月中旬～10月下旬 [10時間]

【単元の目標】

- (1) 繰り上がりのある (1位数) + (1位数) の加法の計算の仕方を理解し、その計算ができる。
- (2) 10の補数や1位数の構成に着目し、計算の仕方を考え説明することができる。
- (3) 10のまとまりをつくることによさに気づき、既習事項をもとに計算の仕方を考えたり、加法を用いたりしようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①加法が用いられる場面を式に表したり、式をよみ取ったりすることができる。 ②繰り上がりのある1位数と1位数の加法の計算が確実にできる。	①和が10より大きい数になる加法について、10のまとまりをつくり、「10とあといくつ」という数の見方を用いて、計算の仕方を考えている。 ②被加数・加数・和の変化の仕方から、式を関連づけてとらえている。 ③日常生活の問題を、加法を活用して解決している。	①加法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考え表現しようとしている。 ②身の回りから加法の場面を見つけ、加法を用いようとしている。 ③既習の数の見方や計算の仕方をもとに、和が10より大きい数になる加法の計算の仕方を考えようとしている。

時間	目標	学習活動	評価規準・方法
※	「つぎの がくしゅうの ために」(p.59) は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1	○単元アプローチ ・さし絵を見て、2つの数量を見つけてその関係に着目し、加法の問題づくりをする。		態②：観察・発言
2	○加数分解による繰り上がりのある加法の仕方を具体物や図などを用いて考え表現し、計算ができる。	・加数分解に適した加法の計算の仕方を考える。 ・9+4の計算の仕方をまとめる。	知②：観察・発言 思①：観察・ノート 態①：観察・発言
3	○加数分解による繰り上がりのある加法の計算ができる。	・加数分解による繰り上がりのある加法の計算の定着を図る。	知②：ノート
4	○被加数分解による繰り上がりのある加法の仕方を考え、計算ができる。	・被加数分解に適した加法の計算の仕方を考える。 ・3+9の計算の仕方をまとめる。	知②：観察・ノート 思①：観察・発言
5	○繰り上がりのある加法の仕方を「10とあといくつ」という見方を用いて加数分解、被加数分解の両方で考え、計算ができる。	【じぶんで みんなで】 ・加数分解、被加数分解のどちらも使える場合の計算の仕方を考える。	知②：ノート 思①：観察・発言 態③：観察・ノート
6	○たし算カードを使って、繰り上がりのある加法の計算を習熟する。	・たし算カードを並べ、きまりを見つける。 ・たし算カードを使って、繰り上がりのある計算の練習をする。	知②：観察 思②：観察・発言
7 ・ 8	○たし算カードを使って、繰り上がりのある加法の計算を習熟する。	・たし算カードを使って、繰り上がりのある計算の練習をする。	知②：観察
9	○式をよみ取り、その式に合う身の回りの場面を見つけ、繰り上がりのある加法の問題をつくり、解決することができる。	・加法の場面での問題づくりを行う。	知①：発言・ノート 思③：観察・発言 態②：観察
がくしゅうを たしかに (p.71) 1時間			
10	○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「たしざん」の がくしゅうを ふりかえろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①②：ノート 思①③：ノート 態①②③：ノート

12 かたちあそび (② p.72～76)

10月下旬～11月上旬【6時間】

【単元の目標】

- (1) ものの形を認め、形状の特徴や機能を理解し、形状の特徴や機能を生かして形を構成したり、識別したりすることができる。
- (2) 立体図形の形に着目し、その特徴をとらえたり、つくりたい形の構成の仕方を考えたりすることができる。
- (3) 図形に親しみ、形を構成したり、身の回りから形を見つけたりしようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 平ら、丸い、かどがあるなどの形状の特徴や転がる、重ねられるなどの形の機能的な特徴を知っている。また、身の回りにあるものの形について、「さんかく」、「しかく」、「まる」などの形を見つけることができる。</p> <p>② つみ木や箱などを用いて、身の回りにある具体物の形をつくったり、つくった形から逆に具体物を想像したりすることができる。</p> <p>③ 身の回りにあるものの形について、観察したり、構成したり、分解したりする活動を通して図形についての理解の基礎となる経験を豊かにしている。</p>	<p>① 身の回りにある具体物の中から、色や大きさ、位置や材質などを捨象し、形を認め、形の特徴をとらえている。</p>	<p>① 身の回りにあるものの形に親しみ、観察したり、構成したり、分解したりしようとしている。</p> <p>② 箱の形や筒の形、ボールの形などを身の回りから見つけようとしている。</p> <p>③ 「さんかく」、「しかく」、「まる」などの形を身の回りから見つけようとしている。</p>

時間	目標	学習活動	評価規準・方法
1 ・ 2	○身の回りにある具体物の中から立体図形を認め、その特徴や機能をとらえることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・箱の形や筒の形、ボールの形などを転がしたり積んだりして、形状の特徴や機能に気づく。 ・立体図形の特徴や機能を生かしながら、乗り物やタワーなどをつくる。 	知①②：観察・発意思①：観察・発言態①②：観察
3	○形の特徴をとらえて立体図形をなかま分けし、識別することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・箱の形や筒の形、ボールの形などの身の回りの立体図形を弁別し、それぞれの特徴を説明する。 ・手探りで立体図形を触り、その特徴をとらえて立体図形を識別する。 	知①：観察・発意思①：観察・発言
4 ・ 5	○立体の面をうつして、立体図形から平面図形が抽出できることを理解し、「さんかく」「しかく」「まる」を見つけることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・立体の面をうつして平面図形を抽出し、その形を使った絵をかく。 	知①③：作品・ノート 態③：観察・発言
6	○具体物を操作して形をつくる活動を通して、できる図形についての理解を深める。	<p>【つかってみよう】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・折り紙を折ってできた形の変化をとらえ、どんな形ができたか考察する。 	知③：観察・発言 態①：観察・発言

【単元の目標】

- (1) 繰り下がりのある(十何)-(1位数)の減法の計算の仕方を理解し、その計算ができる。
- (2) 被減数や1位数の構成に着目し、計算の仕方を考え説明することができる。
- (3) 数を合成・分解して考えるよさに気づき、既習事項をもとに計算の仕方を考えたり、減法を用いたりしようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①減法が用いられる場面を式に表したり、式をよみ取ったりすることができる。 ②繰り下がりのある(十何)-(1位数)の減法の計算が確実にできる。	①被減数が10より大きい数の減法について、10のまとまりをつくり、「10とあといくつ」という数の見方を用いて、計算の仕方を考えている。 ②被減数・減数・差の変化の仕方から、式を関連づけてとらえている。 ③日常生活の問題を、減法を活用して解決している。	①減法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考え表現しようとしている。 ②身の回りから減法の場面を見つけ、減法を用いようとしている。 ③既習の数の見方や計算の仕方をもとに、被減数が10より大きい数の減法の計算の仕方を考えようとしている。

時間	目標	学習活動	評価規準・方法
※	「つぎの がくしゅうの ために」(p.77) は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1	○単元アプローチ ・さし絵を見て、2つの数量を見つけてその関係に着目し、減法の問題づくりをする。		態②：観察・発言
2	○減加法による繰り下がりのある減法の仕方を具体物や図などを用いて考え表現し、計算ができる。	・減加法に適した減法の計算の仕方を考える。 ・13-9の計算の仕方をまとめる。	知②：観察・発言 思①：観察・ノート 態①：観察・発言
3	○減加法による繰り下がりのある減法の計算ができる。	・減加法による繰り下がりのある減法の計算の定着を図る。	知②：ノート
4	○減々法による繰り下がりのある減法の仕方を考え、計算ができる。	・減々法に適した減法の計算の仕方を考える。 ・12-3の計算の仕方をまとめる。	知②：観察・ノート 思①：観察・発言
5	○繰り下がりのある減法の仕方を「10とあといくつ」という見方を用いて、減加法と減々法の両方で考え、計算ができる。	・減加法、減々法のどちらも使える場合の計算の仕方を考える。	知②：ノート 思①：観察・発言 態③：観察・ノート
※	「なるほどさんすう」(p.85) は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
6	○ひき算カードを使って、繰り下がりのある減法の計算を習熟する。	・ひき算カードを並べ、きまりを見つける。 ・ひき算カードを使って、繰り下がりのある計算の練習をする。	知②：観察 思②：観察・発言
7 ・ 8	○ひき算カードを使って、繰り下がりのある減法の計算を習熟する。	・ひき算カードを使って、繰り下がりのある計算の練習をする。	知②：観察
9	○式をよみ取り、その式に合う身の回りの場面を見つけ、繰り下がりのある減法の問題をつくり解決することができる。	・減法の場面での問題づくりを行う。	知①：発言・ノート 思③：観察・発言 態②：観察
がくしゅうを たしかに (p.89) 1時間			
10	○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「ひきざん」の がくしゅうを ふりかえろう。』で、単元の学習を振り返る。		知①②：ノート 思①③：ノート 態①②③：ノート

時間	学習活動
1 ・ 2	○問題文を読み、どのような計算で求められるかを考えて解決する。(加法・減法場面の演算決定) *時間内で扱えない問題は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に取り組ませる。

14 どちらが おおい どちらが ひろい (② p.92 ~ 97)

【単元の目標】

- (1) かさや広さを比べたり、任意単位のいくつ分として数で表したりすることができる。
- (2) 身の回りのもののかさや広さに着目し、かさや広さの比べ方を考えることができる。
- (3) かさや広さを比べたり数で表したりするよさに気づき、くふうしてかさや広さを比べようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①具体的な操作によってかさや広さを直接比較したり、ほかのものをういてかさを間接比較したりすることができる。 ②身の回りにあるもののかさや広さを任意単位として、そのいくつ分かでかさや広さを表したり比べたりできる。 ③身の回りにあるもののかさや広さの大小をとらえるなど、量(かさや広さ)の大きさについて感覚を豊かにしている。	①身の回りのものの特徴の中で、比べたい量(かさや広さ)に着目し、かさや広さの比べ方を考え、見いだしている。	①身の回りにあるもののかさや広さに親しみ、かさや広さを比較しようとしている。 ②身の回りにあるもののかさや広さを任意単位として、そのいくつ分かで数値化することで、かさや広さのちがいを明確にすることができるよさに気づいている。

時間	目標	学習活動	評価規準・方法
かさくらべ (p.92 ~ 95) 3時間			
1	○単元アプローチ (p.92) ・身の回りにあるかさを比較しようとする。		態①：観察・発言
2	○かさの比べ方を考え、直接比較、間接比較で比べることができる。	・かさの意味を知る。 ・かさを直接比較、間接比較で比べる。	知①：発言・ノート 思①：観察・発言
3	○かさを任意単位のいくつ分として数値化し、比較することができ、かさのちがいが明確にできるよさに気づく。	・かさを任意単位(カップ)のいくつ分を使って数値化し、比べる。	知②③：ノート 態②：観察・発言
ひろさくらべ (p.96 ~ 97) 2時間			
4	○身の回りにある広さを比較しようとし、比べ方を考え、直接比較で比べることができる。	・広さの意味を知る。 ・広さを直接比較で比べる。	知①：発言・ノート 思①：観察・発言 態①：観察・発言
5	○広さを任意単位のいくつ分として数値化し、比較することができ、広さのちがいが明確にできるよさに気づく。	・広さを、任意単位のいくつ分(方眼の数)で表したり比べたりする。	知②③：観察・発言 態②：観察・発言

時間	学習活動
1	○2学期の学習内容の理解を確認する。 *時間内で扱えない問題は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に取り組ませる。

15 20より 大きい かず (② p.100 ~ 112)

【単元の目標】

- (1) 120程度までの数の構成を理解し、数を正しく数えたり表したりすることができる。
- (2) 数のまとまりに着目し、「10がいくつと1がいくつ」という見方を用いて、数の数え方や表し方を考えることができる。
- (3) 10ずつまとめて数えるよさに気づき、身の回りのものの個数を数えたり表したりしようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①2位数の表し方や、簡単な場合の3位数の表し方を理解している。 ②数の順序や系列を理解し、数直線の上に表したり、数の大小比較をしたりすることができる。 ③数を、10を単位としてみるができる。	①「10がいくつと1がいくつ」という数の見方を用いて、数の数え方や表し方を考えている。 ②5ずつ、10ずつの数のまとまりを用いて、数の数え方を考えている。 ③数の大きさの比べ方や数え方を日常生活に生かす具体的な場面を見いだしている。	①ものの個数を、数を用いて表すことで、日々の生活が効率的になったり豊かになったりするというよさに気づいている。

時間	目標	学習活動	評価規準・方法
※	「つぎの ふくしゅうの ために」(p.100)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
かずの あらわしかた (p.101 ~ 104) 3時間			
1・2	○2位数の数え方や表し方を考え、十進位取り記数法を理解する。	・20より大きい数の数え方(10がいくつと1がいくつ)を考える。 ・2位数のよみ方、かき方(位取り記数法)を知る。 ・用語「十の位」、「一の位」を知る。	知①：ノート 思①：観察・発言
3	○2位数の構成や十進位取り記数法の理解を深める。	・「10がいくつと1がいくつ」で表された数を数字で表す。 ・数を「10がいくつと1がいくつ」とみてブロックを並べる。	知①：ノート・発言 思①：観察・発言
100までの かず (p.105 ~ 108) 3時間			
4	○10ずつの数のまとまりを用いて、数の数え方を考え、100について理解する。	・10ずつの数のまとまりがいくつあるかで、ペンギンの数を数える。 ・100のよみ方、かき方を知る。	知①③：ノート・発言 思②：観察・発言
5	○100までの数の数表をもとに、数の並び方の規則性を考察し、数の構成の理解を深める。	・100までの数の数表を見て、数の並び方の規則性を調べる。	知①：ノート・発言
6	○100までの数について、順序や系列、大小を理解する。	・かずのせん(数直線)を使って、100までの数の系列や大小関係を考える。	知②：ノート

100より 大きい かず (p.109～111) 4時間		
7	○「10がいくつと1があといくつ」という数の見方を用いて、数の数え方を考え、100をこえる数の構成、よみ方、かき方を理解する。	・100をこえる数の表し方を考え、よみ方、かき方を知る。 知①：ノート・発言 思①：観察・発言
8	○120程度までの数について、順序や系列、大小を理解する。	・100をこえる数の系列や大小関係を考える。 知②：ノート
9・10	○120程度までの数について、数の多面的な見方を考えるとともに、日常生活でのいろいろな数の表し方に気づく。	・数を多面的な見方（加法的構造、数の大小関係）について考える。 【つかってみよう】 ・身の回りにあるものから、120程度までの数を探す。 思①③：ノート・発言 態①：観察・発言
がくしゅうを たしかに (p.112) 1時間		
11	○『たしかめよう』で、学習内容の理解を確認する。 ○『「20より 大きい かず」の がくしゅうを ふりかえろう。』で、単元の学習を振り返る。	知①②③：ノート 思①②③：ノート 態①：ノート

16 たしざんと ひきざん (② p.114～119)

2月上旬～2月中旬 [4時間]

【単元の目標】

- (1) 繰り上がりや繰り下がりのない(何十)±(何十)、(2位数)±(1位数)の計算の仕方を理解し、その計算ができる。
- (2) 10のまとまりや数の構成に着目し、既習の加法や減法に帰着させて計算の仕方を考えることができる。
- (3) 「10がいくつ」や「何十といくつ」という数の見方を用いるよさに気づき、既習事項をもとに計算の仕方を考えようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①「10がいくつ」や「何十といくつ」という数の見方などを用いると、簡単な場合について、2位数などの加法及び減法ができることを知っている。	①「10がいくつ」や「何十といくつ」という数の見方を用い、既習の加法及び減法に帰着させて、計算の仕方を考えている。	①既習の数の見方や計算の仕方をもとに、2位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えようとしている。

時間	目標	学習活動	評価規準・方法
※	「つぎの がくしゅうの ために」(p.114)は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に扱う。		
1	○「10がいくつ」という数の見方を用い、既習の加法に帰着させて、(何十)+(何十)の計算の仕方を考え、その計算ができる。	・20+30の計算について、数の構成(10がいくつ)に着目し、2+3をもとに考える。	知①：ノート 思①：観察・ノート 態①：観察・発言
2	○「10がいくつ」という数の見方を用い、既習の減法に帰着させて、(何十)-(何十)の計算の仕方を考え、その計算ができる。	・50-20の計算について、数の構成(10がいくつ)に着目し、5-2をもとに考える。	知①：ノート 思①：観察・ノート 態①：観察・発言
3	○「何十といくつ」という数の見方を用い、簡単な2位数の加法の計算の仕方を考え、その計算ができる。	・20+4や35+3の計算について、数の構成(何十といくつ)に着目し、位で分けて計算する仕方を理解する。	知①：ノート 思①：観察・ノート
4	○「何十といくつ」という数の見方を用い、簡単な2位数の減法の計算の仕方を考え、その計算ができる。	・24-4や26-3の計算について、数の構成(何十といくつ)に着目し、位で分けて計算する仕方を理解する。	知①：ノート 思①：観察・ノート

17 なんじ なんぷん (② p.120～122)

2月中旬 [2時間]

【単元の目標】

- (1) 短針は「何時」、長針は「何分」を表していることを理解し、時刻をよんだり時計で表したりすることができる。
- (2) 時計の長針・短針の位置関係に着目して、時刻のよみ方を考えたり、日常生活と関連づけて時刻をとらえたりすることができる。
- (3) 時刻を用いるよさに気づき、日常生活の中で時刻を活用しようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①時計の長針・短針を見て、時刻をよんだり、時計で表したりすることができる。	①時刻のよみ方を用いて、時刻と日常生活を関連づけている。	①時刻を用いることで日常生活の行動に生かせるというよさに気づき、日常生活の中で時刻を用いようとしている。

時間	目標	学習活動	評価規準・方法
1	○時刻のよみ方を用いて「何時何分」をよんだり、時計で表したりすることができる。	・1日の生活と関連づけながら、「何時何分」をよんだり、時計で表したりする。	知①：観察・ノート 思①：観察・発言
2	○日常生活と関連づけて、時刻をとらえ、自分の行動に生かそうとする。	【つかってみよう】 ・自分の生活と時刻を関連づけて、休みの1日について発表する。	思①：観察・発言 態①：観察・発言

18 ずを つかって かんがえよう (② p.123～131)

2月下旬 [4時間]

【単元の目標】

- (1) 問題場面の意味をとらえ、数量の関係を図に表し、立式することができる。
- (2) 数量の關係に着目して図に表し、加法及び減法が用いられる場合について考え説明することができる。
- (3) 数量の関係を図に表すことのよさに気づき、図を用いて考えようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知っている。 ②問題に表された数量の関係を、図や式に表すことができる。	①ある場面が加法及び減法を用いることができるかどうかを数量の關係に着目して、図を用いて考えている。	①加法及び減法が用いられる場面の数量の關係を、図を用いて考えようとしている。

時間	目標	学習活動	評価規準・方法
1	○順序数が含まれる場面を図に表して式を考え、加法、減法を用いて求めることができる。	・順序数が含まれる問題場面を図に表し、加法や減法の用い方を考える。	知①②：ノート 思①：発言・ノート 態①：観察・発言
2	○間接加法、間接減法の場面を図に表して式を考え、計算で求めることができる。	・間接加法、間接減法の場面（2つのちがう種類の数）について、1対1対応の考え方を用いて図に表し、加法や減法の用い方を考える。	知①②：ノート 思①：発言・ノート
3	○求大の場面を図に表して式を考え、加法で求めることができる。	【じぶんで みんなで】 ・求大の場面を図に表し、加法の用い方を考える。	知①②：ノート 思①：発言・ノート 態①：観察・発言
4	○求小の場面を図に表して式を考え、減法で求めることができる。	・求小の場面を図に表し、減法の用い方を考える。	知②：ノート 思①：発言・ノート

19 かたちづくり (② p.132 ~ 135)

2月下旬～3月上旬【4時間】

【単元の目標】

- (1) 色板や色棒などを使って、いろいろな形を構成したり変形したりすることができる。
- (2) 平面図形の形に着目し、つくりたい形の構成の仕方を考えたり、色板や色棒の移動による変形について考えたりしている。
- (3) 図形に親しみ、形を観察したり色板や色棒などを使って形を構成したりしようとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①色板、色棒などを用いて、身の回りにある具体物の形をつくったり、つくった形から逆に具体物を想像したりすることができる。 ②形を観察したり、構成したり、分解したりする活動を通して図形についての理解の基礎となる経験を豊かにしている。	①敷き詰められた模様の中に形を認め、形の特徴をとらえている。 ②ずらす、回す、裏返すなどの具体的な操作を通して、形のもつ性質や特徴を生かした形の構成について考えている。	①図形に親しみ、観察したり、構成したり、分解したりしようとしている。

時間	目標	学習活動	評価規準・方法
1	○色板でできた形を観察したり、色板を使っていろいろな形をつくったりして形の特徴を考える。	・色板でできた形が何かを考えたり、色板を組み合わせるいろいろな形を構成したりする。	知①：作品・観察 思①：観察・発言
2	○色板を使って形を構成したり、色板を動かして形を変形したりする経験を通して、形のもつ性質や特徴を考える。	・4枚の色板を組み合わせるいろいろな形を構成する。 ・色板をずらしたり、回したり、裏返したりして、形を変形する。	知②：作品・観察 思①②：観察・発言
3	○色棒を使って、進んでいろいろな形を構成することができる。	・色棒を使って、いろいろな形を構成する。	知①：作品・観察 態①：観察
4	○格子点を使って、進んでいろいろな形を構成することができる。	・格子点を使って、いろいろな形を構成する。	知②：作品・観察 態①：観察

20 おなじ かずずつ わけよう (② p.136 ~ 137)

3月上旬【2時間】

【単元の目標】

- (1) 具体物を何個かずつに分ける方法を理解し、等分することができる。
- (2) 数のまとまりに着目し、具体物を等分することについて、絵や図、式に表して考えることができる。
- (3) 1つの数を、ほかの数をういて表せることに気づき、数に親しみながら学ぼうとしている。

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①具体物を等分したことを、図や式などに整理し、表すことができる。	①具体物を等分することについて、半具体物や絵や図を使ったり、式に表したりして考えている。	①具体物を等分することについて、半具体物や絵や図、式に表して考えようとしている。

時間	目標	学習活動	評価規準・方法
1	○同じ数ずつ分け、何人分かを求めることについて、絵や図を使ったり、式に表したりして考える。	・りんごを1人に同じ数ずつ分けると、何人に分けられるか考える(包含除の場面)。	知①：ノート 思①：観察・発言 態①：観察・発言
2	○同じ数ずつ分け、1人分の数を求めることについて、絵や図を使ったり、式に表したりして考える。	・バナナを何人かで同じ数ずつ分けると、1人分は何本になるか考える(等分除の場面)。	知①：ノート 思①：観察・発言 態①：観察・発言

* **うちゅう すごろく** (② p.138 ~ 139) [配当時数なし]

時間	学習活動
※	・「うちゅう すごろく」は、予備時間や家庭学習などを通して弾力的に扱う。

* **レッツ プログラミング** (② p.140) [配当時数なし]

時間	学習活動
※	・「レッツ プログラミング」は、予備時間や家庭学習などを通して弾力的に扱う。

● **1年の ふくしゅう** (② p.141 ~ 144)

3月上旬 [3時間]

時間	学習活動
1 { 3	○1年の学習内容の理解を確認する。 *時間内で扱えない問題は、短時間学習や家庭学習などを通して弾力的に取り組ませる。